

Training Modules in Tourism

# カリブ観光教本

＝小学校用＝

for Primary Schools in the Caribbean



財団法人 国際観光サービスセンター  
INTERNATIONAL TOURISM CENTER OF JAPAN

## カリブ観光教本（小学校用）について

本書は、カリブ観光機構（Caribbean Tourism Organisation 以下「CTO」という）が加盟している国及び地域の学校教育を受けている若者たちに焦点を当てて、その観光教育を推進するために作成されたものの一つである。

CTO は、カリブ海に面する地域の観光開発推進のため 1989 年に設立された国際機関であり、本部はバルバドスに置かれている。32 のフランス語、英語、スペイン語及びオランダ語を話す国及び地域を構成メンバーとし、加えて、民間部門からは航空会社、クルーズ船会社、ホテル、旅行・貿易雑誌、旅行業者、コンサルタント会社等がメンバーとして参加している。

カリブ地域においては、観光収入は 1997 年ベースで商品貿易の約 31% に等しい外貨収入をもたらしており、いくつかの国においては観光は GDP の 70% にものぼる割合を占めている。また、CTO の予測によれば、観光は 1998 年には直接雇用及び間接雇用を含めて 90 万人の雇用をもたらしている。このようなカリブ地域の経済における観光の重要性に鑑み、カリブ地域の初等教育から大学にいたる観光教育の充実を図るための一環として本書は編纂されたものである。

本書の編纂及びフランス語及びスペイン語への翻訳の経費については、同じ意図に基づく中級編の必要経費とともに CTO から UNDP Japan Fund（日本政府が資金を拠出している）に助成の申請がなされ、その拠出が認められた。

CTO のこのような企画は、2000 年 9 月に外務省の依頼でバルバドスを訪問した際に初めて知り、翌 2001 年 10 月に再度 CTO 本部を訪れた際に中級編とともに完成した初級偏のカリブ観光教本を入手することができた。

帰国後本書に目を通したところ、小学校（厳密には日本とは学制が多少異なっているが）の教員が生徒たちに健康教育を行う際の参考書として観光に関する諸事項が網羅的かつ易しく記述されており、強い感銘を受けた。

英国政府観光庁が作成した日本人旅行者受入れマニュアル等の各国の観光・旅行関係者への啓蒙書を入手して海外旅行者受入れの努力に関して認識を深めてきたが、本書はその内容の多彩さときめ細かさにおいて群を抜いている。

外務省依頼のカリブ地域への派遣は、カリブ地域の日本市場への売り込みについての言も目的の一つとなっていたが、日本から片道でも2日はかかり、その日本市場における観光イメージは必ずしも明確ではなく、遠い未知の訪問先という位置付けである。このような状況においてカリブ地域の日本市場における観光イメージを高めていく上で、本書を日本語に訳して一般に配布することはカリブ諸国が小学校レベルの一般教育においても海外からの旅行者の受入れのために真剣に取り組んでいることを日本の関係者に理解せしめることにつながり、通り一遍のプロモーション活動よりも意義があるものと考えている。また、いかに平易かつ簡潔に記述されているとはいえ、内容的には観光・旅行を学ぶ者にとって必要最小限の事項が本書に盛り込まれているので、観光教育の教材としても十分に立つものと思われる。

なお、本書の日本語訳は立教大学観光学部助手 国玉勝一が行い、レイアウト、写真等の編集は国際観光振興会総務部調査企画課 府川尚弘が行い、全体の監修は新井が行っている。

最後になるが、本書の日本語訳の copyright を無償で国際観光サービスセンターに与えていただいた CTO の Secretary General である Jean Holder 氏のご好意に心から感謝の意を表したい。

平成 14 年 9 月 10 日

(財)国際観光サービスセンター

理事長 新井 倭一

## 目次

総合学習計画	1
指導要領	2
教材	3
育成される技能	4
評価方法	5
SECTION 1 (低学年6~8才向け)	
UNIT 1 – 観光客の定義 (観光客とはどのような人?)	6
UNIT 2 – 観光の定義 (観光とは何を意味するのか?)	9
UNIT 3 – 観光動機 (人はなぜ観光するのか?)	12
UNIT 4 – 旅行形態 (人はどのように旅行するのか?)	16
UNIT 5 – 観光の定義 (観光の重要性)	20
UNIT 6 – 環境保護と観光への影響	25
UNIT 7 – カリブの魅力 (何が観光客をカリブに引き寄せるのか?)	29
UNIT 8 – 観光客の要望	32
UNIT 9 – 観光客の宿泊設備	35
UNIT 10 – 観光における雇用	39
SECTION 2 (高学年9~11才向け)	
UNIT 1 – 観光の歴史	42
UNIT 2 – 観光の形態	46
UNIT 3 – 観光の商品 (商品価値)	51
UNIT 4 – 観光の経済効果	54
UNIT 5 – 持続可能な観光開発	58
UNIT 6 – 観光文化	62
UNIT 7 – 観光による職業	66
UNIT 8 – 観光支援サービス	70

## <総合学習計画>

- ・ カリブ地域の全小学校の生徒全員を対象に、観光に対する意識を目覚めさせることにより、観光産業とその就労機会の重要性について認識させることができる。
- ・ カリブ地域の独自性の保護と振興を念頭にいれ、生徒に地域の独特なイメージを投影することにより、誇りと自信を持たせる。
- ・ 小学校の生徒にカリブ地域の観光商品および文化遺産を十分に理解させることにより、地域の観光の成長と持続性にとって重要な要素である人的魅力、友好、親切というような接客の技能の開発を念頭におく。
- ・ 観光の重要性を国民に意識付け、観光教育の必要性を認識させる。
- ・ 観光は自国や多くのカリブ諸国にとって主たる国家財政の収入源であり、観光産業や観光客に対して積極的な態度でのぞむべきであることを生徒に理解させる。
- ・ 生徒に自分たちの島と他のカリブ地域の島々を客観的に注目させ、周辺の環境への関心を増幅することにより、その保全に興味をいだかせ、その過程において自国の美しさへの意識を高める。

# <指導要綱>

# <林燦>

教師が授業で取りうる指導計画は、生徒が進んでやる気になる学習方法でなければならない。

個々の授業は、生徒がいろいろな質問・疑問・関心を喚起させるような方式で行い、学校、社会、経験など多くのところから得た情報を処理する能力を開発・促進することを目的とする。望むべき指導計画は、次の事項を含むべきである。

- ・ クラス討論の活用
- ・ ロールプレイング
- ・ インタビュー
- ・ 質問表
- ・ 個人とグループの学習課題
- ・ 事例研究
- ・ 模擬実験
- ・ 視聴覚器材を使つての発表
- ・ 有識人の活用
- ・ 校外見学、施設見学
- ・ グループ研究
- ・ 個人研究
- ・ 調査
- ・ 地図づくり

教本の各章は、授業がより効率的に進むよう生徒中心の指導を目指している。この指導方法では、教師は生徒が次に挙げることができるよう案内役としての役割を果たす。

- ・ 状況と問題を把握する。
- ・ 決定、決断
- ・ 実現可能な回答や解決策を考える。
- ・ 主要な考えや概念を理解する。
- ・ 有効なデータを用いて回答を検証する。
- ・ 地図づくり
- ・ 新しい資料、課題、状況に結論づけ

教師は指導方法として校外授業を活用すべきである。生徒が観光産業のあらゆる分野の人々と有意義な交流ができ、生徒の探求力、洞察力、批判的思考力などの能力が開発されうるに十分な準備が必要となる。そのような生徒の知識と技術両面での発達は、長い目でみれば生徒の積極的な態度を養成するのによい影響を及ぼす。

# <教材>

# <概要等計>

学習計画の達成のためには、生徒向けの指導教材の十分な供給が必要となる。観光担当教師は以下の教材を十分に活用し、観光の授業が有意義で興味深いものとするべきである。

- ・ 印刷物
  - －教科書
  - －出版物
  - －観光関連雑誌や他の印刷物
  - －新聞
  - －地図とチャート
  - －写真
- ・ 印刷物でないもの
  - －音響設備とビデオ
  - －CD-ROM's
  - －フィルム
  - －スライド
  - －レコード
  - －有識人
- ・ 設備機材
  - －コンピューター
  - －テレビ
  - －カセットプレイヤー
  - －OHP
  - －スライドプロジェクター
  - －地球儀
  - －マルチメディアプロジェクター